

葛藤を抱えること（教育講演会感想）

2月25日に行われた辻信一先生の講演は、冒頭「今の競争的な、経済優先の社会から『もう降りようよ』ということをお話したいと思っています。」という言葉から始まった。究極にエコ進化を果たしたナマケモノ（なんと、ナマケモノの排泄は週に一度！！）・・・、ブータンの奥に住む自然と共生する人々・・・。辻先生のお話は、私たちに、「どこで・だれと・なにを糧に」生きるのかを問いかける。いやそれだけではない。そこには、人間は「何を感じながら」生きるべきなのかも、在り方の根源としての問いが隠されている。

そして、これらの問いと現在の私たちの在り方を重ねて答えを探するとき、ナマケモノの姿が、我々を超越した崇高な存在のように思えてくる。私たちはいったい、何を感じながら生きているのだろうか。不満、寂しさ、不安、疲労、猜疑、ねたみ、そして、あきらめ。

いつからこうなってしまったんだろう。「豊かな暮らし」と思われていたものが、実は自分自身を追い詰めるだけでなく、多くの自然破壊と遠い国々の人々の安価な労働の上に成り立っているなんて・・・！人々は都市に集まり、競争の中で働き、傷ついていく・・・！格差と排他的感情が満ちる社会・・・！

辻先生の答えは明快だ。『もう降りようよ！』

今回の教育講演会で、もう一つとても印象的だったことがある。それは、後半のパネルディスカッションだ。二部構成で、前半は市内の小中学校の先生方が、後半は「すたんどばいみー」で活動する若者たちが、舞台に上がった。辻先生も、パネラーの言葉の一つ一つを引き受けながら、楽しそうにより突っ込んだ考え方を語ってくださっていた。

ここで印象に残ったのが、パネラーの先生方とすたんどばいみーの若者たちから出されたそれぞれの「葛藤」である。先生方は言う、「実は、学校こそが、競争を軸に、成長と発展だけが唯一の価値観であると教えているのではないか。辻先生が言う『降りること』とは反対の場所になっている学校で、このことをどのように伝えていけるのだろうか。」また、すたんどばいみーの一人は言う。「外国人の子どもたちは、社会に上手に乗れないで苦しんでいるのが現実。私たちは、どのように社会に適応し、人生を歩んでいくかを支援している。そんな今、『降りること』が、外国人の子どもたちにどういう意味を持つのか、現実的なものとしてイメージしづらい」と。

葛藤を抱えることなしに、ものごとが転換し、軌道修正されることはないのだろう。矛盾が矛盾として認識され、それを埋めようとする多くの力と長い時間こそがそれを可能にする。そして確かに、子どもたちの未来に残すべき社会の在り方は、辻先生が示してくれた『降りること』から始めなければ生まれてはこない。



しかし、そのために私たちが抱える矛盾や葛藤は、計り知れないくらいに深いのかも知れない。そんな思いが胸に沸き上がった。

「一日の終わりの放課後に、競争的でない、誰もが自然に『居ること』が許される時間をつくろうとしています。私も教卓の椅子に座って何をするわけでもない。帰りがけの子どもたちも、居たい子はいる。たわいもないことを話しかけてくる子どももいます。そんな時間を今は大切にしたいと思っています」という小学校の先生の言葉に、葛藤を引き受けようとする意志を垣間見た気がした。

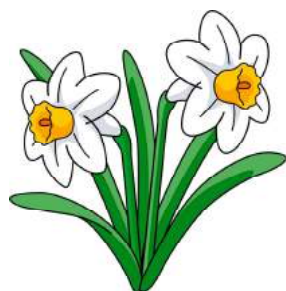
2017年 Ed.ベンチャー学習会

2017年度も多角的な視点で、教育課題に切り込んでいこうと考えております。多くの方にご参加いただき、教育現場を「弱い者を排除しない居場所」とするべく、その感覚を一緒に磨いていきましょう！

4月10日(月) 19:00-21:00	学級づくりの基本ー子どもたちをどう捉えるか 清水睦美氏(日本女子大学)	シリウス603号室
4月22日(土) 10:00-11:30	産休・育休・働くパパ・ママの会 オリエンテーション	シリウス608和室
4月28日(金) 19:00-21:00	発達障がいを知る 海老原裕美氏(松風園臨床発達心理士)	シリウス603号室
5月8日(月) 19:00-21:00	子どもの主体的な学びと生活綴方 ー「学力」支配から自由になるー 奥平康熙氏(和光大学)	シリウス606号室
5月25日(木) 19:00-21:00	なぜ労働教育が必要か 高須裕彦氏(労働教育研究会)	富士見文化会館
6月1日(木) 19:00-21:00	「障がい者差別解消法」について知ろう 向川純平氏(横浜法律事務所)	シリウス603号室
6月5日(月) 19:00-21:00	ホームレス問題からみる貧困(仮) 柏木修氏(元中学校教員)	シリウス603号室
6月22日(木) 19:00-21:00	講演会+パネルディスカッション 学校における労働教育をどのやって浸透させるか 高須裕彦氏(労働教育研究会)	続々計画中!!

特別支援教育のための学習会では、8月21-22日、北海道浦河町にある精神障がいなどをかかえた当事者の地域活動拠点「べてるの家」を訪問予定です。興味のある方、全く知らなかった方、この機会に訪問してみませんか？

(連絡先：森尾 090-2303-0121、三澤 090-2970-4484)



【理事のつぶやき】最近、日本の著名な社会学者の発言に注目が集まっている。「平等に貧しくなろう」という理論は受け入れられないものではないが、付随して語られていたのは、「日本は多文化共生に耐えられないから移民受け入れ反対」という理論である。「シフトダウンしよう、これ以上発展しなくてよい」生き方を実現するために、異質な他者の排除という排外主義の理論になりかねない現実を目の前で突きつけられたような感じがした。(LL)